

生活保護「破壊」

大阪市 異常な行政の実態

橋下徹市長（大阪維新の会）代表のもと、大阪市の生活保護行政はどんなになっているのか。改めて、その実態を追います。

（大阪府・生島貞治、岩井亜紀、前田美咲）

両手を広げれば左右の壁

課長は言い切ります。

全大阪生活と健康を守る

会連合会（大生連）の大口

耕吉郎会長は、「面接室は

本来、申請者のプライバシー

を守るためだけのもの

で、取調室ではない。申請

者・受給者を犯罪者だと言

わんばかりの内装は福祉の

精神に反する」と指摘しま

す。

市の生活保護行政には問

題点が多いとして是正を求

める、大阪市生活保護行政

問題全国調査団は「プライ

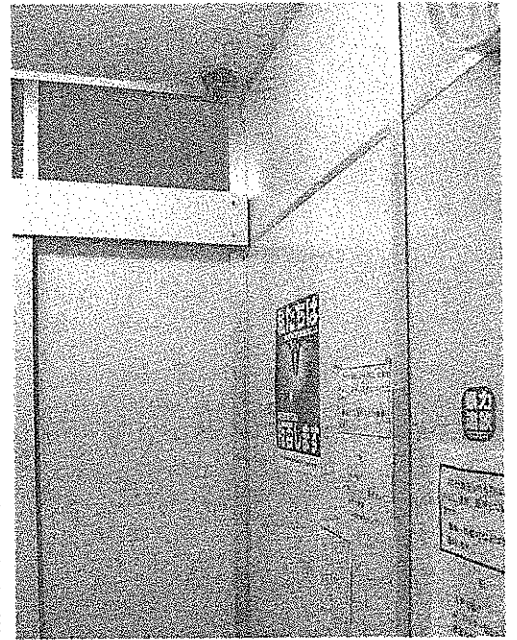
バシー権、肖像権の侵害」

「異様だとは思いません

」。同区の生活支援担当

なり、申請抑止になりかね

面接室に監視カメラ



浪速区の相談室内部、上部にあるのが監視カメラ

ない」として改善を促しています。

大口さんによると、監視

カメラは市内のほぼ全区の

福祉事務所内に設置され、

西成区と浪速区は面接のた

めの個室にも置いていま

す。

大阪市は近年、「生活保

護の適正化」の名の下に、

保護受給者への管理を強め

ています。2012年4月

からは市内全24区に警察O

Bを配置。OBは、市職員

OB、現役職員とともに3

人一組の「不正受給調査専

任チーム」で活動します。

警察OB、専任チームは

何をしているのか。

今年に入り大正区で、50

代の男性が息子所有の車を

複数回運転したという理由

だけで保護を打ち切られま

した。

男性から相談を受けた大

正生活と健康を守る会の矢

達幸事務局長が福祉事務所

職員にただしたところ、

「警察OBが張り込んでい

るんです。証拠もありま

す」と、OBによる張り込

み・写真撮影をにおわせた

といいます。

矢達さんは「ここまです

るのは人権侵害だ。OB配

置は当初、ケースワーカー

の安全確保のためと聞いて

いた。黙っていたら今後、

保護申請者への面接や、日常の相談活動などにも業務が拡大される可能性もある」と警戒します。

大生連の大口さんは「大正区の例から、他の区でも同じような働きをしていることが予測できる。職員と警察OBがここまで連携を強めるのは全国に類を見ない」といいます。

申請者が萎縮

日本弁護士連合会も福祉

事務所への警察OB配置に

警鐘を鳴らします。12年の

意見書は、警察OBが福祉

事務所に常駐することは生

活保護を必要とする人への

市民の「社会的スティグマ

（恥の烙印）らういん」

を助長しかねず、受給者

・申請者に対して「申請し

ようとする意思を萎縮さ

せ」と指摘。不正受給対

策には、「適正な人員配置

と専門性の向上を図り、

丁寧なケースワークをでき

る体制づくりが重要だとし

ています。（つづく）